

第3回 那須烏山市総合政策審議会 会議録

日 時：平成27年7月1日（水）午後1：30～

場 所：烏山庁舎2階第4会議室

■ 会議次第 ■

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 「人口ビジョン」の策定に向けた基本的方向（案）について

①人口動向分析について

- ・人口の現状・将来推計
- ・人口減少の要因
- ・人口減少が本市の地域経済、市民生活に与える影響

②将来人口の展望について

- ・人口減少問題に取り組む意義
- ・人口の目指すべき将来の方向・目標
- ・人口、出生率、人口移動の目標設定
- ・人口減少問題に取り組むべき姿勢

4 その他

(1) 「総合戦略」策定に向けた基本的方向（素案）について

5 閉 会

■ 出席者 ■

（審議会委員） 中村会長、遠藤委員、松本委員、八木沢委員、堀江委員（代理）、棚橋委員、両方委員、塩田委員、小幡委員、萩原委員、小堤委員、矢口委員、町田委員、江口委員

（総合政策課）

-秘書政策室- 福田室長、水上課長補佐兼総括、田代課長補佐、関課長補佐

■ 意見概要 ■

3 協議事項（1）「人口ビジョン」の策定に向けた基本的方向（案）について

会長 : 『「人口ビジョン」策定に向けた基本的方向（案）』における“将来人口の展望”の内容について了承を得たいとのこと。我々審議会としてはこの内容を受けてどうするのかといった点を議論したい。基本的には転入を促したり若者の転出を抑制できたりする魅力的な取り組みを発信したい。何れにせよ“将来人口の展望”の内容を踏まえての話になる。審議会での了解を得たものとした方が良いか。

委員一同 : (了承)

会長 : 了承いただいた内容をもとに、市長への中間報告となる答申及び最終成果となる冊子の作成を進めさせていただきたい。

4 その他（１）「総合戦略」策定に向けた基本的方向（素案）について

- 会長 : 「人口ビジョン」を達成するため、どのように戦略に取り組んでいくか、腰を落ち着けてじっくりと議論したい。
- 事務局 : 戦略については、庁内各課においても対象となる施策を検討してもらう予定である。
- 委員 : 《資料番号３「那須烏山市の地域活性化に向けた取組について」の内容について概略説明》
- 会長 : 大いに参考にさせていただく。具体的でも抽象的でも構わないので皆さんのご意見をお願いしたい。
- 委員 : マンガに関して。金井町には著名なマンガ家の生家があるという噂を聞いたことがある。先ほどの提案内容につながるのでは。
- 委員 : 大洗町の商工会が仕掛けた“ガールズ&パンツァー”というアニメが有名である。実際のまちを舞台に話が展開され、関連イベントには町民の何倍もの人が集まる一大ブームに。グッズの売り上げも相当あるとのこと。
- 会長 : アニメの力は至る所に浸透・波及する。
- 委員 : 城下町である烏山には和菓子屋が多いという特徴がある。活かすことはできないだろうか。
- 委員 : 以前、文星芸術大学のマンガ専攻の方に会社紹介のマンガを作成いただいた際、教授から“宇都宮は全国でも有数のオタクのまち”だとの話を聞いた。それだけの市場があるということ。栃木県出身の人気声優がイベントを開催すれば数万人を集客するほどのパワーがある。こうした経済を伴うテーマに絞って話を進めることは良いことだと思う。
- 会長 : J R宝積寺駅の看板に描かれている七福神のマンガの作者は誰か。
- 事務局 : 市でも烏山線の7つの駅を上手く表現したこの絵を活用したいと思い、J R東日本に問い合わせたところ、J Rの子会社が看板を作成したとの情報を得ている。何れにせよ著作権はJ R東日本が有している。作者については改めて確認したい。
- 委員 : 確かに七福神の作風は“ドラゴンボール”作者の鳥山明のものに似ている。実際にどうなのか確認する必要あり。名前も“鳥山”と“烏山”で似通っていて面白い。
- 委員 : 文星芸術大学にはマンガ家のちばてつや先生が教員として来ているとのこと。
- 委員 : 七福神の龍の絵を見て思い出したのが、龍門の滝の傍にある“龍門ふるさと民芸館”。施設内には、烏山に縁のある物語をアニメにして龍が語り部となるアトラクションがある。“蛇姫様”もその一つ。昔は龍が動き手に持っている玉も光っていたが、現在は照明が暗くてよく見えないし、6つの物語のうち2つは故障して起動しない状態。折角ならそういったアトラクションもリニューアルして欲しい。全市的に売り出す話であれば、作風やタッチに共通性を持たせられるとさらに良い。
- 委員 : “蛇姫様”については、異なるタイトルであるものの“まんが日本昔ばなし”で以前放映された。その他にも烏山と縁のある物語がアニメとして放映されている。そうしたものが上手く活用できると良い。
- 委員 : プロジェクトとして活用できる資源は沢山ある。既存の施設が名所にあるのに使えないのは勿体ない。
- 会長 : プロジェクトを進める上での要素が上手く繋がっている印象を受ける。
- 委員 : 20年ほど前、南那須に在住する声優の先生が“ドラゴンボール”の声優さん達を町に呼んでイベントを開催した記憶がある。
- 委員 : 金融機関の方に質問。“道の駅”を那須烏山に作った場合に採算は合うか。

- 委員 : 提案として挙げられているが収益を上げるのは難しいと思う。ある程度人が集まる環境が整った段階で“道の駅”を整備し効果を得るといいうながれが良いと思う。
- 委員 : 国道293号沿いの“道の駅みわ・北斗星”の物産センターには平日でも車が多く停まっている。他にも茂木や馬頭には茨城に抜ける主要な道路沿いに“道の駅”がある。茨城方面から那須烏山を抜け宇都宮方面に向かうルートが設定できれば、オオムラサキや大木須の蕎麦と絡め、“道の駅”整備への展開が図られるのではないかと。車の流れが変わり集客も見込めると思う。
- 委員 : “道の駅”はどこにでもある。“道の駅”ありきの話は難しい。
- 会長 : 特産物では難しくてもキャラクターなどで繁盛するケースはあるようだ。
- 委員 : 何年か前までは“道の駅”にわざわざ行くケースもあったが、今は動きがなくなってきている。
- 会長 : 基本的には定住というよりも、外から人がどんどん訪れて欲しいということ。アニメなどは幅広い世代に受け入れられるかもしれない。抵抗をあまり感じない。
- 委員 : 《資料【アンケート】の内容について概略説明》
- 委員 : 市役所が以前に実施していたフェイスブック“なすから情報局”の現在の取り組み状況はどうか。
- 事務局 : 先日、市の若手職員による“営業戦略推進部隊”が立ち上げられ、“定住促進班”と“魅力発信班”による活動を進めるものとしているが、“魅力発信班”において、13名のメンバーが輪番制でフェイスブックを更新する取り組みを検討しているところ。
- 委員 : 自治体としての取り組みとは別に、例えば、県北のある首長さんなどは個人のHPを開設していて、プライベートでの行き先でまちづくりにつながる要素があれば、参考になるものとして積極的に情報発信を行っている。那須烏山の市長も、トップセールスも含めて検討してみてもどうか。
- 会長 : 市のトップがITを活用した取り組みを行うことで、さらに活動の広がりが期待できる。
- 委員 : インターネットに関連して。まちづくり研究会の中で、白鷗大学の先生がJR烏山駅に降りた人達の流れをどのように滞在させるかを提案されていた。市街地内の地図に飲食店や立ち寄れる場所を示し、QRコードで様々な情報を提供することで若者を取り込もうというもの。
- 委員 : 以前、JTBに依頼して情報誌“るるぶ”の那須烏山市版を作成したことがあったと思う。反響はいかがだったか。
- 事務局 : グルメや山あげ祭の紹介があり好評。増刷もされた。
- 委員 : “るるぶ”は人気があるが経費も高い。観光の面では“お食事マップ”配布の取り組みを進め、それなりの効果が得られたが、パンフレットを銀行の店頭などに置いてもらおうにも、6千部から7千部といった要望に対応できるだけの部数を揃えることができない。現在、市商工観光課と連携しながら、低コストで数多く発行できる総合的な内容のパンフレットを検討しているところ。那珂川町などは、“るるぶ”からデータを購入し、4分の1程度に内容を簡素化したものを広く配布した。“東京ソラマチ”や“県庁昭和館”など、パンフレットを置く場所・機会は沢山ある。本当なら“るるぶ”をどんどん配りたいが予算の制約もある。設置先からの要望に対応できるよう、コストを下げたパンフレットを広く発信していかなければ。

- 委員 : パンフレットが品切れとなった場合を見越し、市のホームページに予めPDFデータを掲載しておけば、誰でも自由にアクセスでき印刷も可能となる。
- 委員 : インターネットやフェイスブックなど様々な手段はあるが、例えば観光協会のホームページについて、市のホームページとリンクさせ、職員が常に内容を更新させたとしても、それほどアクセスがないのが実態である。見てもらうためにはもっと大きなきっかけが必要である。
- 会長 : 前は“子育てのしやすいまち”ということで色々意見がうかがった。住んでいる人の視点から、地味ではあるが外から来た人達に上手く活かしたいというもの。今回はアニメとなると観光に特化することになるのか。
- 委員 : 観光のみにとどまらない。那須烏山には“英語ビレッジ構想”があるが、アニメを世界に発信するとなれば、英語でのプレゼンテーション力が当然求められる。言語は重要なファクター。日本では“クールジャパン”として文化を海外に発信しているが、その際にも、日本人が講師として現地の人達に技術を伝えるとなれば外国語の力は非常に重要。那須烏山で育った人達が、英語やアニメのことをきちんと勉強し、アメリカにアニメの文化を伝え、例えばマンガ学校のような場所で教授になるようなことも考えられる。那須烏山の地が、アニメを通じて教育の場としても生きていくように思う。
- 会長 : アニメが新しい分野の産業を生み出す面もある。可能性が感じられる。
- 委員 : 保護者の方達にとって英語教育は非常に大きな関心事である。手遊び歌なども、かなりの数のお子さん達が英語で歌っている。
- 委員 : 地方創生の時代に生きるのは今の子ども達。その思いや夢を取り込んでいく必要がある。そのためには、これまで提案されたような内容に市民レベルで取り組める場所・機会が欠かせない。凝り固まった発想には、やはり限界があると思う。
- 委員 : アンケート調査などを実施しても、必ず正反対の意見が出るし、どの時点で意見を整理すればよいのか分からない悩みがある。
- 会長 : 総合計画などでも、次の世代を担う中学生や高校生の意向を聞く動きが活発化してきている。
- 委員 : アニメ自体はそれだけですごいパワーを持っている。例えば、助成金を入れて、温泉や宿泊施設と連携しながら、文星芸術大学の学生さん達が勉強しやすい環境を整えてあげれば、人口減少に歯止めをかける効果が期待できると思う。
- 委員 : ここで決められた内容は、本当に進められることになるのか。
- 会長 : どんどんアイデアを出し合い、いけると踏めばすくい取ってもらうということ。全く見通しのないものはまずいが、そこはあまり心配しなくて良い。
- 委員 : 観光スポットの関連。アニメも一つの要素ではあるが、その他に特徴があるものとして食べ物やお菓子が挙げられる。那須烏山には自信を持って提供できる商品がかなりある。ただ、それが表に出てこないだけ。それらを育て、販売を促進する施策を打つだけでかなり効果がある。B級ではなくA級にしてあげる。先ずやってみることが大事だと思う。
- 委員 : 先ほどの“トキワ荘”の話ではないが、もしも“アニメ塾”のようなマンガの学校があれば多くの若者が訪れるし、とても楽しいと思う。
- 委員 : アイデアとしては面白いと思う。文星芸術大学の次長は那須烏山と繋がりのある人物。そうした連携を活かしたプロジェクトも考えられるかもしれない。市外との交流をすることで異質な発想も出てくるかもしれない。

- 委員 :そこに小学生や中学生の子ども達が触れ合えることができると良い。誰もが自由に発想して、落書きでもなんでもできるような空間を提供してあげたい。子ども達もそういう場所を求めている。アニメやマンガに拘らず、公共施設の近くに立地する既存施設を活かし、溜まり場も兼ねた、自由に入出りできるような場所のイメージ。
- 委員 :切り口は文化であろうか。音楽・文化・芸術を志す若者達、文化人の卵のような人達に、空き店舗を上手く活用してもらおう試みは面白いと思う。
- 委員 :アニメやマンガは夢物語的ではあるが、単純に絵を描くだけで終わりではない。音楽や歌もあれば、アプリケーションやゲームづくりなどにも派生するもの。
- 委員 :小学校跡地で残っている場所を上手く活用できないか。
- 委員 :馬頭町にある“いわむらかずお絵本の丘美術館”のような施設イメージだろうか。
- 委員 :街なかに施設があることが望ましい。現在実施されている“ここなす教室”のような形で子ども達と交流できるようなもの。あまり遠いと子ども達が動けない。
- 会長 :全国どこでも「アニメのまちづくりをします。」と宣言することはできるが、本市の一番の強みは“ドラゴンボール”の作者“鳥山明”の名前と“鳥山”の地名とが似通っていること。審議会としては前向きにいけそうな雰囲気だが事務局としてはどうか。
- 事務局 :細かい施策の話で難しい面もある。そういう意見もあるという前提で、アニメのみに固執せず何かに特化して物事を進める、或いはJR沿線の取り組みを上手く活用していく、といった方向性を示していければ。“トキワ荘”などの具体的な話はさすがに難しい。一つの例として、アニメを活かして子ども達に何かできる場所を提供するといったことは考えられるかもしれない。
- 会長 :少し心配なのは著作権の問題をクリアしなければならないということ。
- 委員 :那須塩原市が“ハローキティ”とコラボしたケースがある。相当な繋がりがあって実現したようだが、大変に苦労した話を聞いた。
- 委員 :市のホームページへの商店関連の宣伝広告の貼り付けはOKか。他市町のホームページではよく見受けられるが。
- 事務局 :民間記事については有料のバナー広告となるが、役所の取り組みはどうしても堅くなりがちで発信下手は否めない。今のホームページ上では制限があり難しいが、民間データをアップする仕組みやメディアを活用した展開方策を今後も考えていきたい。現在は、“山あげ行事”のユネスコ無形文化遺産の登録を控え、ホームページの多言語化などを検討しているところ。なお、今回提案させていただいているまちづくりチャレンジプロジェクトには、行政として手が回らない部分を担っていただける民間団体の育成を補助する仕組みがある。そうした民間団体を応援し、活動を融合させながら取り組みを進めていきたい。もう一点、これまでの様々な意見が出たなかで言うと、“賑わいの発信の場所があるといい”というのがキーワードになるかと思う。例えば、子ども達が小さい頃から何かに集中して取り組めるような施設。この先、公共施設をどうしていくかは非常に重要な視点でもあるため、まちづくりのゾーニングと合わせながら検討を進めたい。
- 委員 :住んでいると分かりにくいのが、鳥山は落ち着いた城下町の雰囲気が漂うまち。そうであるにも関わらず鳥山城はあの状態。鳥山城をメインにするような構想や環境整備があつてよい。“蛇姫様”との関わりもあり、訪れる人達は増えると思う。
- 会長 :天守閣を造れということではないが、シンボルになるはず。
- 委員 :お城ブームにいかに乗るかが大事である。

- 会長
委員 : 本日は思わぬ展開となった。その他にご意見があればうかがいたい。
- 委員 : 地域の資源を有効に活用することが大事。一つは山であり、一つは川である。山に焦点を当てると、例えば、喜連川方面から南那須方面にかけての山の裾野は殆ど利用されていない状態。土地の価値が下がるなか、経済性の低い山林を維持していくことは大変である。そうした山林を林間放牧の大牧場として活用することは考えられないか。木を残しながら放牧を行うので環境破壊も起こさない。地権者対応・経費・時間などのハードルは高いが、畜産の振興・森林の保全・観光施設としての活用などにつながる。かなりの雇用も確保できると思う。基幹産業を育てることがまちの発展につながるし、那須烏山の将来を長いスパンで考えることが大事。
- 会長 : それが6次産業的なものにつながる可能性も感じられる。牧場があり、乳搾りができ、チーズなどが作れる。1次から6次までが潤うことになる。
- 委員 : 牧場といえば那須を思い浮かべがちだが、地形にも合った那須烏山ならではの牧場ということ。産業・雇用・景観なども絡めた提案である。最後に何かあればうかがいたい。
- 事務局 : 過去には那須烏山においても人口増加の時代があったと思う。その要因が分かるようなデータがあれば提示願いたい。国・県のものでも構わない。
- 会長 : 昭和50年から60年にかけての人口増は、南那須への住宅団地整備の影響が考えられる。当時の土地単価は宇都宮などと比較するとかなり安価であった。
- 事務局 : 今後そうした状況はなかなか見込みにくいと言える。
- 事務局 : 「人口ビジョン」については、本日ご了承の内容を中間報告として市長に答申したい。「総合戦略」については、本日の意見を整理しながら、庁内各課にて施策を検討してもらおう形をとりたい。

以上